

第12期REF第2回幹事会開催

第12期第2回幹事会が、平成3年11月27日(火)午後6時30分よりREF会議室において開催されました。出席者は、本多氏(会長)、加藤氏(幹事長)、前川氏(邑都)、小嶋氏(財務・地盤)、三輪氏(交通)、長谷川氏(談話会)、下川氏(広報)、野村氏(総務支援)、岩崎(広報支援)、嶋田(談話会支援)の10名でした。

第2回幹事会において以下の事項が承認されましたのでご報告致します。

第12期REF運営方針について

1. 各分科会開催状況

○幹事長

今期は中間報告会に向けて、早め早めに手を打つよう、各分科会とも研究を行って下さい。特に土地利用分科会、緑分科会の研究報告が遅れているようです。

2. 中間報告会について

昨期の2月8日(金)に引き続き、今期は2月7日(金)に中間報告会を開催することが決定しました。内容、会場等については年明けに広報します。

3. 分科会活動助成金の助成承認について

11月25日締切の分科会活動助成金の申請において、邑都分科会から2万円の申請がありました。申請理由は実地調査費ということで幹事長、および各幹事の全員一致をもって承認されました。他分科会については申請がありませんでした。なお総助成金6万円のうち残り4万円については、中間報告会の招待者支援金などとして使うことを考えています。

会員の移動等雑件

今回の幹事会で、福井大学工学部助教授の白井秀和氏の入会が承認されました。白井氏は環境設計工学科に属し、西洋建築史(特に18世紀ごろのフランス建築)を専門とし、講義では近代建築史を教えている。

白井氏は新分科会の結成を試みているなど、今後の活躍が期待できます。

また、会員NO.172の良玄佳彦氏が転勤のため会友に承認されました。

新規入会(敬称略)

氏 名	白井 秀和 ... NO.172
所 属	福井大学工学部環境設計工学科
自宅住所	福井市中央2-7-17
自宅電話	0776-22-4532

会員→会友(敬称略)

氏 名	良玄 佳彦 ... NO.335
勤 務 先	東京コンサルタンツ㈱ 東京支店 東京都杉並区泉3-1-8
電 話	03-3325-7581
自宅住所	東京都調布市仏川町2-10-3 クレセントハイム205
自宅電話	03-5384-2034

理論研活動方針決まる

第1回理論研では、「竜安寺の15番目の石」を輪読することが決定した。この本は、ソ連を代表する知日派ジャーナリストが日本について経験的に書いたものであり、はじめに著者は「類なき日本人の勤勉さ」、「類なき日本人の礼儀正しさ」等の伝説?について疑問を持ち、これを打破するための作業に取り組んだと述べている。

第1回の出版は1986年の20万部で、その後数回の増補が繰り返されソ連での総部数は百万部近くになったといわれる。

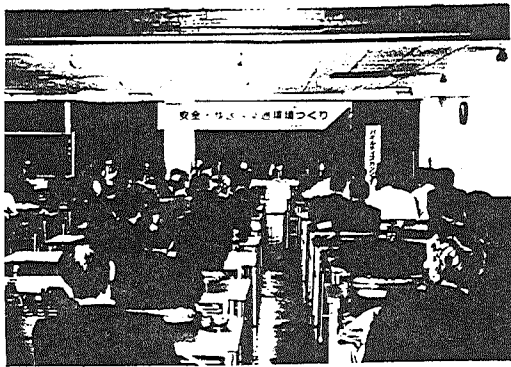
第2回理論研では、本の内容に関して議論した結果、その中から各章毎にソ連に関する記述を抜き出し、それについて考察していくことが決定した。以下に、次回理論研の担当を記す。

- | | | | |
|----|-----------------|---|-------------|
| 1章 | 真実に似た伝説と伝説に似た真実 | — | その由来について |
| 2章 | マンクールト伝説の伝承 | — | 経済大国を解く鍵 |
| | ... | | (小林) |
| 3章 | 古い歌を今風に歌う方法 | — | 日本のムラ社会 |
| | ... | | (岩崎) |
| 4章 | いかにして生き馬の目をぬくか | — | 日本の会社を動かすもの |
| | ... | | (嶋田) |

次回理論研は
1月13日です



「都市の交通改善」シンポジウム開催



平成三年十一月三十日(土)の午後一時より、主催(財)国際交通安全学会「都市の交通改善」プロジェクト福井地域委員会により、福井県民会館七階大会議室において、「安全・快適な交通環境づくり」と題して福井市を対象とする「都市の交通改善」シンポジウムが開催されました。

はじめに東京大学教授の中村英夫先生をお招きして三十分程度の基調講演が行われ、次に福井市の交通環境改善に対する提言として福井県警の玄津幸隆氏、福井大学の川上洋司氏、大阪大学の山田稔氏、タウンクリエーターの松村みち子氏による研究報告がとり行われました。

十五分程度の休憩をはさみ、午後三時二十五分からはパネルディスカッションが行われました。中部大学の竹内伝史氏の軽妙な司会で進行し、パネリストに岐阜大学長加藤晃氏、千葉大学の鈴木春男氏、福井県警の松本勲氏、県の大道路裕氏、福井新聞の松島翠氏、県交通安全母の会の光成正子氏を迎え、活発な意見交換がなされ盛況のうちに閉会しました。

分科会だより

交通分科会

今後は地域間交流について研究を行っていく予定。

緑分科会

具体的テーマについてはまだ未定だが、12月11日に分科会を開き、早急にテーマを決める。

土地利用分科会

「廃棄物を活用した市街地整備」という方針で今年度の分科会をとり行っていく。

地盤分科会

前回の2期に渡る「斜面崩壊」の調査・研究を引続き行う予定だが、今回は水に対する評価を考慮した内容とする。

地象分科会

テーマは「福井地域に被害を与えた古地震の調査その2」と題し、福井地域及びその周辺地域に起きた地震から得られるデータと前回の結果とを合わせて、地震に対する福井地域地盤の特性を捉える。

邑都分科会

10月25日、11月25日に分科会を開催した。今後は邑都軸への更なる分析を地域の歴史的形成過程及び交流軸という視点から検討していく。具体的には池田町、美山町、及び福井市を取り上げ、小字の歴史的形成過程についての研究、交流指標の検討を行っている。

次回分科会は1月7日に開催を予定している。

新分科会発足か！

福井大学助教授の白井秀和氏の入会により新しい分科会が発足しようとしています。その名も都市美分科会。しかし、現在入会者が3名(予定)ということで、まだ分科会としては認められていません。ただ今入会者募集中ということで下記に紹介します。

「都市美分科会」

本分科会は、都市美や都市の景観更には都市の観念などの研究を通して、都市を美学的、哲学的に考察することを目的とします。これらの問題に興味ある会員の皆様の参加を募ります。(by 白井)

人員募集！！



”REF 談話会” 報告

去る11月6日(水)に、県職員会館201号において第29回REF談話会が開催されました。内容は、7月26日～29日のIRE・REF合同海外研修会の上海・杭州都市調査報告でした。中国からの留学生の参加もあり、活発な意見交換がなされました。

★★★ 編集後期 ★★★

寒さも本格的になり、吐く息も白い季節がやってきました。つい最近REF総会が終わって、ほっと一息ついていたようにも思えますが中間発表を2月に控え、また各分科会とも忙しくなりそうです。産官学の皆様とも忙しい時期ではありますが、ともにがんばりましょう。

(by Mitsuo)

第12期REF第3回幹事会開催

第12期第3回幹事会が、平成年1月29日(水)午後6時30分よりREF会議室において開催されました。出席者は本多氏(会長)、加藤氏(幹事長)、長村氏(副幹事長)、三輪氏(交通)、酒井氏(緑)、沢崎氏(土地利用)、古市氏(地象)、前川氏(邑都)、小嶋氏(財務・地盤)、川上氏(理論研)、長谷川氏(談話会)、岩崎(広報支援)、嶋田(談話会支援)の13名でした。

開催事項については以下に詳細を記す。

1. 第12期REF中間報告会について

中間報告会は2月7日(金)、県民会館305号室において午後6時より開催

開催期日は上記のように決定し、各分科会が講演概要原稿の提出、出席者の報告を行った後、報告会の司会者、発表者等が決定された。

2. 第12期海外研修の計画について

研修会幹事の稲葉氏より、今期海外研修計画(案)が発表された。今期も昨年と同様、IREとの共催で行う予定。期日は8月7日から11日、第1候補としてはロシア共和国極東地域を考えている。

詳細は同紙に記載。

3. 行事予定について

理論研究会…2月25日(火)

談話会…3月17日(火)

4. 会員の移動等雑件

今期の幹事会では、福井県小浜土木事務所の滝波栄治氏と福井県土木部砂防課の伊藤仁志氏の入会が承認された。

○新規入会(敬称略)

氏名	滝波 栄治 … NO.182
分科会	土地利用
所属 電話	福井県小浜土木事務所 0770-56-2100
自宅住所 自宅電話	福井市南四ツ居町2-1-1 0776-54-1063

氏名	伊藤 仁志 … NO.181
分科会	地盤
所属 電話	福井県土木部砂防課 0776-21-1111
自宅住所 自宅電話	福井市木田3-603 0776-34-3104

理論研(ソ連シリーズ最終回)

1月13日の第2回理論研では、1章、2章、3章、4章について各担当が発表し、議論を行った。このソ連シリーズも次回第3回理論研を持って終わりとなる。次回担当を以下に記す。

(岩崎)	… 5章	抽象的観念から具体的利益を引き出す	—— 和を信奉する日本人
(前川氏)	… 6章	井戸番は渴きに死なず	—— 日本式プラグマティズムの功罪
(嶋田)	… 7章	鶴の叫びと白鳥の歌	—— 日本の教育と技術
(小林)	… 8章	現代の蝶々さん	—— みせかけと実態
(加藤氏)	… 9章	甘い瓜もその蔓は苦し	—— 経済大国の裏面

第12期 海外研修 ロシア極東地域に決まる

今年度もREF海外研修はIREとの共催で行います。IREでは、今年度の研修先としてロシア共和国極東地域を考えています。旧ソビエト連邦共和国が解体し、今後、政治的、経済的改革による発展に興味を持たれる地域ですので、研修の訪問先としては適地ではないかと思われます。

具体的コース日程、費用についてはまだ決っておりませんので、興味を持たれる方は、海外研修担当幹事の稲葉までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先 福井県福井土木事務所
稲葉 隆夫
TEL 0776-24-5110

第12期 REF 中間報告会開催

第12期REF中間報告会が平成4年2月7日（金）午後6時から福井県民会館において開催されました。参加人数は35名程度で、そのうち招待者として福井新聞社の山下氏と朝日土木事務所の服部氏にご参加いただきました。報告会は総合司会中村氏の開会の辞で始まり、各分科会が順次約6分の発表とそれぞれコメントのコメント、質疑応答を交えて計7分科会の中間報告を行いました。最後に川上氏からの総評をいただき、報告会は閉会しました。

各分科会とも非常に興味深い分野における研究を進めており、皆様からも貴重なご意見をいただき、これからの研究成果に期待したいところです。今後各分科会はこれらの意見を参考にし、総会に向けてより研究を深めて行く予定です。

なお、例年通り懇親会の場合においてIRE企画運営委員会より優秀研究が表彰されました。優秀研究には邑部分科会、地象分科会が選ばれました。

交通分科会

テーマ：「人はなぜ交流するのか」

本分科会では、第11期で取り扱った交通分断要因が地域間交流に及ぼす影響および可能性について、地域間交流史やPT調査結果を利用して明らかにする。

今回は「交流」の概念を追求し、交流指標となる交流促進要因、交流阻害要因について研究を進めた。

今後は各種資料より具体的事例を取り上げ、さらに研究を進めて行きたい。

土地利用分科会

テーマ：「廃棄物の利用と市街地形成に関する考察」

近年、家庭や産業活動、都市活動からの廃棄物が増大する中で、埋立地等についても限界に近い状態を向かえつつある。一応の対応策は施されているものの、まだ様々な課題が残されている。

本研究においては、廃棄物の中でも特に建設廃材等の産業廃棄物を利用し、市街地形成上の課題に対処できうる方策について考察して行きたい。

邑部分科会

テーマ：「地域空間の都性と邑性に関する研究」

本分科会は前年度に引続き地域空間の都性と邑性に関する研究を進めており、邑都軸に関して今回は過去2時点（S54, S59）による時系列分析を行い、軸の時間的安定性を証明した。また、地域間の結び付きという観点から交流指標によるアプローチも行った。

一方、自然邑のモデル地区として美山町、池田町を取り上げ、歴史的な部分からの考察も深めている。

緑分科会

テーマ：「公園整備のあり方について」

近年の高齢化社会の進展や住民ニーズの変化等に対応するために、今までの公園配置、施設の設置状況を見直す必要があると考え、本分科会では量より質として見直すべき公園を現地調査し、利用者等にアンケートを行うなど将来の公園のあり方を考えていく。

地盤分科会

テーマ：「丹生山地北部の斜面崩壊」

今回も10期、11期に引続き斜面崩壊の研究を進めている。航空写真より崩壊地点のカウントを行い、地質学的指標より多変量解析を行うなど、斜面崩壊の危険区域をマクロ的にとらえることを目的とし、同対象地区についてデータの蓄積、新指標の追加等を行い、前回までの問題点を踏まえながら研究を進めて行く予定。

地象分科会

テーマ：「福井地域に被害を与えた古地震の調査その2」

本分科会は地震を研究対象とし、“福井地域に被害を与えた古地震”について昨年度に引続き今回は明治以降のものについて同様の調査を進めていく考え。

談話会のお知らせ（30回記念）

今回は昨年旧ソ連邦とアメリカ合衆国を訪問された川上氏と前川氏をゲストに迎え、下記の通り談話会を開催することが決定しました。スライドとディスカッションをまじえながらお二人の楽しいお話が聞けると思いますので、多数のご参加をお願い致します。

テーマ： **二大国断片**
(BOODKA & BOURBON)

日時：3月17日（火） 6:30pm-8:30pm
場所：職員会館201号 TEL 0776-26-0111

ゲスト：川上洋司氏 旧ソ連（平成3年11月8日～11月15日）
極東地区のハバロフスクとウラジボストクを訪問

前川政人氏 合衆国（平成3年9月16日から10月2日）
教育視察としてワシントン州とフロリダ州を訪問

☆☆☆ 編集後期 ☆☆☆

今回は2月7日の中間報告会のため発送を1週間遅らせましたのでご了承下さい。

ところで今、愛媛県松山市でREFのような研究会がつくられようとしています。そこで、交流会として3月20日ごろにREFから3名が訪問することになりました。

また、平成4年3月23日（月）午後6時より鯖江市響陽会館にて、IRE主催でテーマ「21世紀の丹南都市圏を考える」地域問題講座が開かれます。

第12期REF第4回幹事会開催

第12期第4回幹事会は、平成4年3月25日(水)午後6時30分よりREF会議室において開催された。議題については、以下に詳細を記す。

1. 松山地域における交流会の報告について

去る3月20日(金)、本多氏、加藤氏、前川氏の3名が参加した「松山地域との交流会」の報告が行われた。

「えひめ地域環境研究会」は、産官学からの幅広い人材結集をはかり、今後の調査・研究を行いながら会員相互間の技術的、理論的水準を向上させ、地域の発展に寄与することを目的とし、発起人11名により設立された。

2. 第12期海外研修の計画について

稲葉氏(研修会幹事)より、今期海外研修(ロシア極東地域)について、その行程および見積について発表があったが、国情、旅費等に問題があり、再度検討が必要ということになった。最終的に「北京・天津」に決定した。

3. 行事予定について

理論研究会 … 第1回は、5/6日(水)に開催。
最新理論”カオス”に挑戦。

4. 会員の移動等雑件

新規入会者は、正会員2名、学生会員2名。(敬称略)

氏名	服部 尚 … NO.183
分科会	昌都
所属機関	朝日新聞福井支局
電話	0776-22-0910
自宅住所	福井市手寄1-15-15
自宅電話	0776-27-6741

氏名	長谷川 洋 … NO.184
分科会	都市美(未分科会)
所属機関	福井大学工学部環境設計工学科
電話	0776-27-8763
自宅住所	福井市文京2-17-30 106号
自宅電話	0776-27-6407

氏名	横木 剛 … NO.201
分科会	交通
所属機関	福井大学大学院建設工学専攻
電話	0776-23-0500
自宅住所	福井市大宮3-21-11
自宅電話	0776-24-8067

氏名	英 清治 … NO.202
分科会	昌都
所属機関	福井大学大学院建設工学専攻
電話	0776-23-0500
自宅住所	福井市田原2-10-13
自宅電話	0776-21-1607

海外研修先”変更”
のお知らせ
『北京・天津』に決定!!

ニュース81号でお知らせした「ロシア共和国極東地域」への訪問は、諸般の情勢から今期は見送ることとなり、替わって中華人民共和国の首都「北京」と北部の代表工業都市「天津」を訪問することが決定しました。

日程は8/8(土)～8/12(水)の4泊5日ですが、詳細なスケジュール、費用等については別紙をご覧ください。

参加者急募!! 締切間近
定員25名 募集締切5/25(月)

※連絡先: 福井県福井土木事務所
稲葉 隆夫
0776(54)5110

第31回談話会のお知らせ

今回の談話会は、昨年国際協力事業団(JICA)でケニアのジョモケニアッタ農工大学に2カ月間滞在された小林先生をゲストに迎え、スライド等まじえながら、下記のとおり開催いたします。

今期初の外部からのゲストですので、多数のご参加をよろしくお願い致します。

※担当: 県庁下水道課 長谷川 義則
0776(21)1111 (内3472)

テーマ: ケニア見聞録
- JICA活動からの報告 -
ゲスト: 小林克巳氏(福井大学工学部助教授)
日時: 6月16日(火) 6:30p.m.
場所: 県職員会館 201号
0776(26)0111

第12期REF第5回幹事会開催

第5回幹事会が、平成4年5月13日（水）午後6時30分よりREF会議室において開催されました。出席者は幹事長の加藤氏をはじめ、各幹事の12名。今回は、REF12号の編集および、海外研修、第12期総会等について議論が行われました。

1. REF12号の編集について

各分科会の編集委員が報告され、広報幹事より編集計画（目次、原稿締切、編集委員会等）が発表された。

第1回編集委員会 5月19日（火）
原稿締切 6月25日（木）

2. 第13期海外研修について

海外研修先及び渡航日程の変更、最終決定、参加者の確認、事前スケジュールについて報告された。

変更先
北京・天津へ4泊5日
8/8（土）～8/12（水）

別紙詳細

3. 第12期総会について

役員改選案を検討したが、最終決定までは至らず、次回幹事会において決定することとなった。総会の開催日、総会司会等についても同様。次回幹事会は、7月8日（水）を予定。

4. 5～6月の行事予定について

理論研究会 … 特集：「カオス理論」

総会で特別講演を予定。

次回、6/11（木）、7/17（金）

談話会 … テーマ：「ケニア見聞録」

開催：6/16（火）、6:30p.m.

5. 会員の移動等雑件

新規入会者は、正会員1名、学生会員1名。

また、県人事異動速報もあったがここでは省略する。

氏名	舟渡 悦夫 … NO.145
分科会	昌都
所属機関	大同工業大学工学部建設工学科
電話	052-612-5571
自宅住所	愛知県春日井市春見町41
自宅電話	0568-81-6691

氏名	山田 英代 … NO.203
分科会	都市美（未分科会）
所属機関	福井大学大学院建築学専攻
電話	0776-23-0500
自宅住所	福井市湊町29-18
自宅電話	0776-35-2429

◎退会 津田 直昭氏

分科会のお知らせ

交通分科会

現在、各自、それぞれの原稿を作成中。

土地利用分科会

アンケート調査が終わり、結果の分析及び報告書の作成を行っている。今回は、5月下旬を予定。

緑分科会

今後、最終的な作成を進めて行く。

地盤分科会

12期の研究報告作成に向けて、分科会を随時開催中。次回から週1のペースで行う。

昌都分科会

東郷、美山、池田、今立町の各施設を丸1日かけて見学及び現地の調査を行った。一番感動したことは、池田町のは廃村を見学し、一福というおそば屋でそばを食べたこと。今回は、6月4

日を予定。

地象分科会

資料収集を終え、今後は前回の結果と合わせ、福井地域の地震について考察して行く。

理論研（カオス理論に挑戦！！）

新シリーズ第1回理論研が5月6日（水）、午後6時30分にREF会議室において開催された。今回は、「カオス理論に挑戦」第1回ということで、福井卓雄氏（福井大学）の解説を交えて議論を行った。

テキストは、「カオス—新しい科学を作る」新潮文庫を用いる。今後、この書をもとに議論を行い、難解な部分については福井卓雄先生に解説をして頂く予定。なお、参加者にはテキストが支給される。

次回：6/11（木）、7/17（金）

☆☆☆ 編集後期 ☆☆☆

先ず、前号についてのお詫びと訂正をします。中間報告会の部分で、2行目に朝日土木事務所の服部氏とありますが、朝日新聞社の間違いでした。申し訳ございませんでした。

さて、今期の活動も締めくくりの時期がやってまいりました。この時期になると、各分科会とも非常に忙しくなります。何か追いつめられる感がします。それに加えて、今期は幹事長をはじめ、役員の改正が大幅に行われるようで、波乱万丈の年になりそうです。

最後に個人的な感情ですが、4年連続幹事長を務められた加藤哲男さん、ご苦労さまでした。（by mitsuo）

第十二回総会 開催される

第四代幹事長に前川氏選出。
平成四年七月二十一日(土) 午後一時三十分から福井県職員会館において、REF第十二期分科会報告会及び第十三回総会が開催された。

まず、分科会報告会が総合司会橋本栄治氏により開催された。加藤幹事長の挨拶の後、滝波栄治氏の司会により、土地利用分科会(発表者沢崎幸夫氏)、緑分科会(発表者酒井俊雄氏)、交通分科会(発表者三輪裕一氏)地盤分科会(発表者野村吉範氏)、邑都分科会(発表者坪川敏幸氏)地象分科会(発表者中島敏浩氏)の発表が行われ、児玉副会長による講評の後閉会となった。

引き続き総会に移り、本多会長の挨拶、富田顧問の挨拶、橋本幹事による新入会員の紹介及び会員等移動報告、加藤幹事長による第十二期活動報告が行われ、酒井俊雄氏を議長に選出し、議事に入った。議決事項は第十二期決算報告について、役員改選について、第十三期予算案について、規約改正についての計四件で、全て幹事会案のとおり可決された。これより、第九期から四期続いた加藤幹事長体制に終止符が打たれ、前川幹事長による新体制が発足した。総会は議事後、前川新幹事長の決意表明が行われ、長村副幹事長により閉会された。総会終了後、懇親会が開催され、加藤前幹事長の思い出話などで盛況のうちに閉会となった。

○議決事項 すべて満場一致で可決されました。

- ・第十二期決算報告について
- ・役員改選について
- ・規約改正について
- ・第十三期予算案について

議決事項

第十三期役員案(敬称略)

幹事	川上洋司	(論文、理論研)
副幹事長	長村一男	(国際交流担当)
幹事	前川政人	
副会長	児玉忠	
会長	本多義明	
幹事	橋本栄治	(総務)
幹事	小嶋直人	(財務・地盤)
幹事	中村毅	(広報)
幹事	長谷川義則	(談話会)
幹事	稲葉隆夫	(研修会)
幹事	加藤式男	(交通)
幹事	沢崎幸男	(土地利用)

幹事

酒井俊夫	(緑)
伊藤仁志	(地盤)
坪川敏幸	(邑都)
龍崎俊和	(地象、財務支援)
白井秀和	(都市美)
野村吉範	(総務支援)
英清治	(広報支援)
横木剛	(談話会支援)
加藤哲男	(企画)
近藤幸次	
栗田幸雄	
今野修平	
富田伊太郎	
富永六郎	

第12期決算報告

収 入	支 出
費 目	費 目
正会員会費	分科会活動助成金
学生会員会費	理論研究会助成金
会友会費	談話会助成金
中間報告会	研修会助成金
総 会	機関誌印刷費
繰 入 金	中間報告会費
預金利子	総 会 費
寄付金その他	幹事会費
会費未納金	会議室管理費
	通信連絡費
	旅 費
	雑 費
	予 備 費
	積 立 金
合 計	合 計

繰越金 = 1,548,757 - 1,472,374 = 76,383

第13期予算案

収 入	支 出
費 目	費 目
正会員会費	分科会活動助成金
学生会員会費	理論研究会助成金
会友会費	談話会助成金
中間報告会	研修会助成金
総 会	機関誌印刷費
繰 入 金	中間報告会費
預金利子	総 会 費
寄付金その他	幹事会費
会費未納金	会議室管理費
	通信連絡費
	旅 費
	雑 費
	予 備 費
	積 立 金
合 計	合 計

・「規約改正の内容については同封の別紙を参照して下さい。」

「REFの内なる充実」により「開かれたREF」の更なる発展に向けて

第13期幹事長 前 川 政 人

前幹事長・加藤氏は4年間にわたり、「開かれたREF」を基本的な理念としてREF活動の推進に大きく貢献されたと思います。その4年間にREFの名声は県内ばかりでなく、広く全国に、そして海外までも知れ渡るようになりました。このことはREFにとって名誉なことですが、今後のREF活動に大きな責任が付与されたことも意味しているのではないのでしょうか。今やREFの諸活動は注目されています。注目に値する活動内容の充実を図らねばなりません。そのため

に次のことを提起したいと思います。

まず、今一度REF活動の原点に立ち返り、会員相互の理解を深めながら「内なるREFの充実」を活動の基礎に据えなければなりません。会員ひとりひとりの責任性に期待したいと思います。「デートより談話会」を合い言葉にREF活動への積極的な参加を期待します。(特にNさん注意!!)

次に世代交代の円滑な展開をしなければなりません。REFにとって新進気鋭の若い会員が増加することはたいへん喜ばしいことです。その中から次代を担う人材の育成を進めなければなりません。これは我々幹事の仕事ではありますが、それよりもまず会員ひとりひとりが自分自身を有為な人材に育て上げねばなりません。REF活動の中で、特に分科会活動がそれを担っていると思います。分科会活動こそ、人材育成または自己啓発の実験室です。

最後に、前幹事長の児玉氏から引き継いでいる重要な課題として、「女性会員の増加」に、今後とも積極的に取り組みたいと思っています。今や社会現象のあらゆる場面で、女性の発想、女性の感性が求められています。職場で、地域で、学校、街で、知性豊かな女性の発掘に努めて下さい。「女性のためのREFパンフレット」も考えています。

Caring out Responsibilities Enriches our Friendships

以上、とりとめのない文章になってしまいましたが、第13期幹事一同、積極姿勢でREF活動と取り組む所存ですので、会員みなさま方のご協力のほどよろしくお願いいたします。

○新規入会

No.	氏名	分科会	所属・TEL
186	堂本 博哉	地盤	中央測量設計㈱設計部 <0776>22-8482
187	藤田 佳久	都市美	高志高校 <0776>24-5175
188	三田村 佳紀	緑	福井県福井土木事務所 <0776>24-5110
189	木田 具明		榑大林組 福井営業所 <0776>22-5581
204	川尻 竜也	交通	福井大学工学部建設工学科 <0776>23-0500
208	酒井 香	交通	福井大学教育学部小学校課程 <0776>23-0500

REF・IRE合同 北京・天津都市調査報告
副団長 加藤 哲男

8月11日の夕刻、北京市内のレストランへの車中で、我々は始めてヘリコプター事故のことを知らされた。前日の万里の長城は曇空ながら、我々遠来の客を優しく迎えてくれた。汗を吹きながら、何番目の望楼までたどりつけるかと、時間を気にして登った長城の近くで、同じ日本人の観光客が痛ましい事故に遭遇してしまったのだ。いつものことながら、観光には常に危険がつきまとう。そうした中で、これまで、REF海外研修が一度も事故に遭わなかったことは、誠に幸運であったとしか言いようが無い。

8～9日に訪れた天津には、旧租界の名残を感じさせる建築群や、新しい中国のエネルギーな雰囲気を感じ出す食品街など、北京とは異なった一面を垣間見ることができた。11日の午前中には、団長以下の5名が北京建築工程学院を訪問し、交流会に参加した。残りの14名以下は、故宮博物館や天安門広場などを見学した。午後からは各班別の調査が行われ、その成果は報告書にもまとめられると共に、懇談会で発表されることとなっている。

速報!

9月18日 幹事会において新分科会「都市美分科会
(分科会長 白井秀和)」が承認されました。

◇お知らせ◇

- 10月19日 ○理論研 午後6時30分 REF会議室
『カオス理論に挑戦!!』
(テキスト:「カオスー新しい科学を作る」)
- 10月24日 ○日本都市計画学会中部支部研究発表会
午前10時30分 安田生命ビル会議室
- 10月28日 ○談話会 午後6時30分 県職員会館401号室
『海外研修会報告(北京・天津)』

多数のご参加をお願いします。

☆～編集後記～☆

前期の下川・岩崎両広報担当から、中村・英広報担当へと交代後、初のREFニュースとなります。今後様々な不手際が目立ってくることはと思いますが両名ともにいっそうの努力をしていく次第でありますので、何と度宜しくお願い致します。

地域交流報告

橋本 栄治

YRP (山梨地域計画研究会) からの招待状を受け、REFを代表して川上先生と橋本の二人は去る10月22日、人口1万6千人の山梨県河口湖町を訪れた。

当日は素晴らしい晴天に恵まれ、雪を頂いた富士山を新幹線からも眺めることができたが、目的地に到着して河口湖畔から真近に望む富士山のすばらしさは新幹線からの眺めとは比べものにならないほどの絶景であった。

さて河口湖町では、昨年オープンしたばかりという町立河口湖美術館において「観光地開発と国際交流」と題した討論会が行われた。

山梨大学の花岡先生を進行役にして、韓国の釜山圏未来学会から招かれた鄭昌植、吳允杓の両先生、河口湖町からは山本収入役と観光課の担当者、そして河口湖観光協会と同旅館組合の各代表に、YRP、REFの代表を加えて計20名の討論となった。

まず、自己紹介と各研究会の紹介に続き、山本収入役から河口湖町の町勢をはじめ、観光の現状が特に詳細に説明された。収入役に就任する前の観光課長時代から、女性をターゲットにした観光地づくりを目指して、パンフレットにラベンダーの香りをつけたり、目で耳で……五感で感じとれる町づくりを進めてきたという。また奥さんのハーブづくりをきっかけに、町では「ふるさと創生事業」の一環として「ハーブによる町づくり」を計画、これを実行に移して、平成2年4月1日にハーブ館を開館、約1年半の間に観光客は15万人を突破、計画は軌道に乗りつつあるとの報告があった。その他にも花トピア事業やフィールドミュージアム事業などの観光振興事業を展開中で、年間約650万の観光客が河口湖町を訪れているという。

しかし地元の観光業者からみると、特にハーブ館のオープンによって観光客が奪われたという評価もあり、行政が介入する限度について一言反発が述べられるという一幕もあった。

また、

○富士山を見物に訪れる観光客の約6割は車利用であるといった事態から今後とも道路の整備が重要な課題であること。

○リニア中央新幹線の建設時にこれを見学に訪れる観光客(1万人/日と推定)の対策問題。

○富士山、富士五湖を中心にした広域的な観光計画の必要性の問題。
などについて意見が戦わされた。

このように、これまで富士山と湖の存在だけで観光客を集めてきた河口湖町においても、国際的に「世界の富士」をもっとPRすべきといった意見や、生き残りのための新たな策を展開すべきであるといった意見など活発な討論が展開された。

2日目は、石和町でYRPが設計計画したという地元産の石を利用した橋やミニ公園の現場を見学させてもらった。わがREFもユニークな提案を数々行ってきたつもりではあるが、自ら設計計画したものを形に残してみたいと最後に感じた次第である。

一 談話会報告 一

都市調査団

北京・天津を語る

長谷川 義則

REF・第32回談話会について

幹事長 前川政人

今年8月に北京・天津を訪れたIRE・REF都市調査団をゲストに迎え、今期初めての談話会が10月28日開催された。

本多団長のあいさつ、加藤副団長のスライドによる調査概要報告の後、各調査班から報告書に基づき調査内容が発表された。

交通調査班(松本氏)からは急速なモータリゼーションが進む中での問題点、土地利用調査班(児玉氏)からは北京繁華街の雑踏に感じる空間スケール、社会環境調査班(松村氏)からは古代建築の再現された古文化街の話題が報告され、参加者(21名)の関心と呼んだ。質疑応答の中では、訪問地の文化のルーツを探るべく歴史調査班の設置を求める声などフランクな意見が交換された。

【幹事より一言】

今期は「デートより談話会」を合言葉に、「きてよかった、きいてよかった談話会」にしていきたいと思います。今後とも積極的な参加をお願いします。

理論研のお知らせ

日時: 12月7日

場所: 三谷ビル204号室 REF会議室

前回に引続き「カオス理論」に挑戦しております。皆様多数のご参加をお待ちしております。

今回の談話会は、例年のごとくREF海外研修の報告を中心に開催されました。北京・天津の都市調査に関する報告を聞きながら、そして10年前のマニラの時と比べながら、充実した調査内容、短時間に調査をする合理性などに、いまさらながら感心させられました。

ところで、今回の海外研修では、はじめてREF会員の親子参加があったということで大変意義深いと思います。長村康平君(18歳)、加藤周太君(12歳)、三輪麻都良君(12歳)の三人です。若い(若い)頃に国際交流を経験できるということは、我々の世代からすると隔世の感がしますが、それにもまして三人の将来が頼もしいものになるものと確信しています。

かつて山梨のYRPが、小学生を対象とした写生大会を実施していましたが、その時のYRPの理念は「将来の人材育成である」ということでした。当時、私はそれを聞いて、そんな遠大な計画を考えるのは現実の諸問題からの逃避である、心の中で一蹴していました。しかし今回の海外研修を契機として、REFとしても将来の有為な人材育成を考えなければならないことを痛感しました。と同時にYRPの先見性に脱帽する次第です。

是非とも、「北京・天津都市調査報告」に載っている三人の文章をご覧になって下さい。三人の個性にあふれた文章にはっとします。そしてそれぞれの中国についての鋭い問題意識を読みとることができます。そこには忘れてしまった懐かしい世界があります。大人のいわゆる常識的、一般的な文章とは一味も二味も違います。

苦言「それにしても参加者が少ないと思います。20人でした。」

北京・天津都市調査団について

団長 本多義明

IRE・REF合同（IRE第6回，REF第8回）の海外研修がこのたび北京・天津にて行われた。中国については、広州（1985）、上海・蘇州（1987）、上海・杭州（1991）と調査を行っているが、華北は我々にとって初めての訪問となった。

7月3日に結団式を行い、19名の調査団員は各自の興味により、交通、土地利用、社会環境の3班に編成されるとともに、行動計画を確認した。

今回の調査には福井大学工学部環境設計工学科4年生の李平君が北京出身のため里帰りを兼ねて通訳、案内をお願いした。また、呉永夫教授（北京工業大学建築工程）のお世話で、北京工業大学を訪問することが出来た。8月11日午前9時より交流会が行われ、馮国明教授等5名の方々と都市・交通問題について討論を行った。その後、張仁氏（北京市、市政設計院）の案内で工事中の高速道路（環状線）の視察を行うことが出来た。

なお、8月10日には李平君の御両親、呉永夫御夫妻を交えて夕食会がもたれ、楽しい時を過ごした。

最後に、今回の調査が無事に終了したことに調査団員の皆様および阪急交通社の木村好広、丸山徹氏に深く感謝の意を表するものであります。

分科会だより

○交通分科会

交通分科会では、既に3回の討論を終え、4回目の日程も12/15に予定しています。テーマなどは以下のように決定し鋭意調査中です。

テーマ 「福井市における自転車利用と将来」

第1章 都市と自転車（海外・国内）

第2章 自転車と歴史

（日本・福井、構造）

第3章 自転車利用の現状

（実態、ネットワーク、構造）

第4章 自転車利用の要因

（心理（アンケート）、手段、天候、経済性）

第5章 自転車交通の問題点

（駐輪・事故、放置・景観）

○土地利用分科会

本年度の研究テーマは、昨年度の

廃棄物再利用の延長線上とし、ビオトープについて福井県の地理的、国土的条件下におけるプランニングなどを行う予定で、12月中旬に分科会を開催することになっている。

○緑分科会

12月に調査項目について打ち合わせ予定。

○地盤分科会

研究テーマ：「福井市内における土砂移動減少に関する考察」

福井県内で過去に発生した土砂移動現象をデータベース化し、素因との相関性について考察し、福井県版ハザードマップ作成に一石を投じたい。毎月15日に定期的に分科会を開催予定。

○邑都分科会

去る10月26日の邑都分科会において今期の研究方向について話し合い、今

期はREF12号で課題として挙げた2点すなわち人的・社会的地域資源による邑性の尺度の定義と地域構成単位の個性及び多様性を有効活用するためのネットワーク構築方法についての研究をすることにした。

○地象分科会

今期の地象分科会の活動方針は、前回までの調査により得られた結果を基に、福井地域に影響を与える地震の震源と活断層との関係を調査し、福井地域における地震発生の特徴を考察して行きたい。

○都市美分科会

本年は、西欧の古代都市の生成と発展についての基礎的文獻を原書で輪読することによって、都市美の問題を歴史的側面から考察することを目標にする。

日本都市計画学会中部支部研究発表会開催される

去る10月24日、小雨降るなか福井市大手の安田生命ビルにおいて日本都市計画学会中部支部研究発表会が開催された。まず、発表に先立ち都市計画学会中部支部長である紺野昭氏（豊橋技術大）より開会の挨拶がなされ、研究発表に移った。内容は以下のとおりである。

・地方都市における新用途地域制度の運用に関する事例研究

静岡県：溝口久

（コーディネーター）：中村司、渡邊茂樹

・わが国の近年の都市域における建築活動の実態分析

金沢大学：藤島正克、川上光彦、竹田恵子

・線引き制度の運用と市街化動向に関する実態分析

金沢大学：高橋篤志、川上光彦、竹田恵子

・地方小都市における将来計画立案に関する検討

～福井県小浜市における一考察～

三和測量建設㈱：林浩、木村太郎、河村一治、東義博

・金沢総合交通ネットワーク政策における工学的アプローチ

（計画情報研究所）：北原良彦、濱博一

・高齢化社会に対応したまちづくりに関する考察

三和測量建設㈱：岸竜太郎、杉本敬一、宇野ゆかり

・ポスト・ハウスリングの成立条件に関する考察

松阪女子短期大学：岡本祥浩

・マレーシア ジョージタウンの華僑水上集落の生活実態

—林姓橋の場合—

豊橋技術科学大学：宇高雄志、何進松、紺野昭

昼食をはさみ、韓国東亜大学校よりお招きした呉允杓氏より「釜山市の都市計画」と題した講演会が行われ、釜山市の都市計画の現状についての報告がなされ、それについての数々の質問がなされた。また石川県都市計画課の野田隆夫氏による、「県都金沢における都市開発の動向」、福井市開発部の木幡雅好氏による「御屋形地区再開発事業について」と題する講演も併せて行われ、盛況のうちに閉会となり、その後会場を移し懇親会が催され、その全日程を終了した。

◇会費納入のお願い◇

分科会をはじめ談話会などREFの活動が順調に行われ、更に今年は新しい分科会が動き出してきており、益々活動が拡大してきており、喜ばしい限りです。しかしそれにとまって出費もかさんできており、今の会費納入の状況では今後のREFの運営自体に影響を与えかねません。会費を納入されていない方は早急に納入願います。

詳しくは同封の「会費納入のお願い」を参照して下さい。

財務 小嶋 直人

第13期 REF 中間報告会開催

第13期REF中間報告会が、平成5年2月5日(金)午後6時より福井県民会館において開催されました。本多義明会長による開会の挨拶の後計7分科会による中間報告が行われました。各分科会の報告に関して参加者からの活発な質問等がなされ、丹南地域環境研究会よりお招きした津郷勇先生による講評、及び川上洋司氏による総評を頂き、報告会は閉会しました。

各分科会とも独自の視点から研究を進めておりこれからの研究に期待されます。又、ご参加頂いた皆様からも非常に貴重な意見や質問がなされ、今後の研究に役立つものと考えられます。

なお、例年通り懇親会の場において優秀研究が表彰されました。今回の優秀研究には地象分科会が選ばれました。

○交通分科会

「福井市における自転車利用の現状と将来」

車を運転できない人の都市内移動手段のひとつに自転車がある。この自転車による移動を選択する(せざるを得ない)人にとっての問題解決、といった観点から、歴史や海外などの実態などの紹介を含め、福井市の現状や課題を整理し、次期に予定しているアンケート調査などにより将来の自転車利用について提案しようとするものである。

○邑都分科会

「邑間の同質性・異質性に関する若干の考察」

今回は、邑的地域のアイデンティティを明らかにし、地域資源などの独自性の発見・活用、邑的地域間の地域的連携によって活力ある地域作りが出来るのではないかとということで、地域単位としての邑に着目し、①地域の歴史性からみた異質性、②地域イベントからみた同質性・異質性、③地域資源からみた邑の同質性・異質性、④定住者の地域に対する意識からみた同質性・異質性の4点から考察する。

○緑分科会

「魅力ある公園整備のあり方について」

昨年度は、福井市内の公園を対象として、住民などへのアンケートを行い、公園の利用頻度、公園に求められるものについて、全般的考え方について考察した。今年度は、実際にいくつかの公園を現地調査し、魅力ある公園整備の具体的項目について考察していくものである。

○地盤分科会

「大野盆地における地下水位変動に対する一考察」

本研究においては、大野盆地における井戸水位経年変化、大野市の都市変遷の歴史、大野市の生活形態の変化についてとりまとめ、地下水位経年変化と都市変遷及び生活形態の相関性について考察するもので、今後の土地開発のあり方及び水利用のあり方についても提案したい。

○地象分科会

「地滑り地区における過疎化現象と地域活性化」

今回地象分科会では地すべり地区に

指定された地区の住民にアンケート調査を行い、「地滑り地区に指定されると今以上に嫁がなくなる」といった声とその地区全体の声なのかあるいは一部なのかといったことを調査し、さらには住民が今後どのような地域作りをしていきたいと考えているのかを把握する。

○都市美分科会

「都市の誕生と古代の都市計画」

今回はGeoffrey Broadbentの新「EMERGING CONCEPTS IN URBAN SPACE DESIGN」の原書を輪読し、都市建設の歴史を、理論とモデル、思潮といった様々な側面から捉えることによって、現在の我々が直面している問題に大きな方向を見いだす。

○土地利用分科会

「都市におけるビート7°に関する考察」

近年の都市活動の急激な膨張により、廃棄物の処理を始めとする環境に関わる問題がクローズアップされてきた。今後はより快適な環境を備えた都市の創出を目指して、自然環境に配慮した都市活動のあり方について総合的な取り組みをしていく。

中間報告会を終えて

幹事長 前川 政人

第13期中間発表会では、それぞれの分科会において研究の進捗状況に差はあるものの、7分科会の全てが揃ったことは、今後の分科会活動および総会に大きな期待がもてるものと思います。さて、REFの正会員も100名に達する勢いで拡大しています。よく言われることですが、コンサルタントを中心とした産、県庁を中心とした官、そして大学関係の学、この産・官・学の三位一体がREF活動の原動力だと思います。中間発表会の発表者メンバーもこの三者のバランスがよくとれていたと思います。しかしREF会員の皆様は、それぞれ職業として産・官・学に所属しておられるわけで、あくまでもREFには一個人として活動に携わっておられます。大切なことはこの産・官・学の交流ではないかと思っています。

そこで、「おにぎり」と「おもち」になぞらえて、産・官・学をすこし考えてみたいと思います。「おにぎり」はご飯を握ったものですから、ご飯粒のひとつひとつが見えますし、また握ったが故にしっかりとくっついていきます。ただし握り具合によってはご飯粒がバラバラになることもあります。一方「おもち」は、もちろん杵でついたものですから、ご飯粒を見ることはできません。そしてしっかりとくっついていきます。英語では「おにぎり」のことをライスボール、「おもち」のことはライスケーキといえます。「おもち」はご飯を練り上げたお米のケーキというわけです。

会員がますます増えるこれからのREFにとって大切なことは、「おにぎり」的な結束から「おもち」的な結束の組織に向かうことではないでしょうか。つまり「産」は当然のことながら、企業的な利益を優先しがちですが、REF活動においては官や学のような長期的な福利の増大を目指すことが大切だと思います。多方「官」は繁文縟礼に陥ることなく、「産」や「学」の自由な発意、発想を発揮することです。そして「学」は「官」や「産」のシステムティックな合理性を取り入れることです。つまりは三者がそれぞれの立場に立脚しながら、他の二者に限りなく接近することだと思います。そのことがREF活動を大きく飛躍させる原動力になると考えます。

私は高校教師をしていますので、三者のどれにも当たらないと思いますが、とりあえず幹事長として、各幹事とともに、「おもち」をつく杵を持ったり、臼取りをしたいと思っています。

第33回談話会 開催される

談話会幹事 長谷川 義則

第33回談話会がさる1月20日、職員会館にて開催された。コーディネーターに山本迪氏、ゲストに県庁若手職員5名を迎え、それぞれが担当している土木事業紹介の後、意見交換がなされた。

参加された方々からは、

- ・行政組織に求められる総合性と専門性
- ・住民ニーズの把握方法とコンセンサスを得るための説明技術
- ・事業効果の定量的な評価手法
- ・縦割り行政にみられる総合的な企画力の弱さ
- ・事業PRの必要性

などの意見が出された。いずれも土木行政を進めていく上での重要な課題であり、地域住民の生活様式の多様化・高度化に伴い変化する行政ニーズを常に念頭におかねばならない行政マンへの提言にもなった。

これからは住民参加型の開かれた土木行政が望まれるが、REF活動はそのための良い機会でもあり、訓練の場になる事を痛感した。

また、今回は幹事長の紹介により女性2名を含む23人の参加を得たが、今後とも皆さんの積極的な参加をお願いします。

○新入会員

No	氏 名	勤 務 先
190	盛岡 正男	県立盲学校 〒910 福井市原目町39-8 Tel (0776)54-5289
191	成川 雅一	高志高校 〒910 福井市御幸2-25-8 Tel (0776)24-5175
192	船木 繁樹	羽水高校 〒910 福井市羽水1-302 Tel (0776)36-1678
193	白崎 智美 (邑都)	福井県立大学情報課 〒910-11 吉田群松岡町 兼定島4-1-1 Tel (0776)61-6000
194	新名 加苗 (邑都)	福井県立大学情報課 〒910-11 吉田群松岡町 兼定島4-1-1 Tel (0776)61-6000

○理論研の活動方針について

現在理論研は参加メンバーが少数に限られており、内容的にはともかく活発な活動がなされているとはいえません。そこで今後の理論研のあり方を考える必要から、先日の中間報告会において要望調査を実施し、17名の会員からご意見を頂きました。

それによると参加意志については、「積極的に参加をしたい」、「テーマによっては積極的に参加したい」とする人が10名、「都合がつけば参加したい」が6名となっており、関心は決して低くないようです。活動方法についてはじっくりとひとつのテーマに取り組むより、いろいろなテーマについて幅広く取り上げる、参加者が自由にテーマを選択し、話題提供、ディスカッションを行うといった要望が強いようです。取り上げたいテーマについても特に固執しておらず、新・旧、自然科学・人文社会を問わないという意見が多いようです。

以上のような要望を踏まえながら、今後(次年度以降)のあり方を検討したいと思います。その他会員の方でご要望があれば、遠慮なく川上までお寄せいただければと思います。とりあえず今後のスケジュールですが、現在やむを得ない事情で中断しております『カオス理論』を従来のやり方で再開(4月初旬、日程未定)したいと思っております。

理論研幹事 川上 洋司

○海外研修アンケートのお知らせ

今年も例年通り、REF海外研修を行います。つきましては会員の皆様に海外研修地の希望につきアンケートを行いたいと思います。そこで同封のはがきアンケートに回答の上、3月11日までに投函願います。アンケートの結果がまとまり次第、候補地より第33期REF海外研修地を決定し、皆様にお知らせできるものと考えております。

♂♀～編集後記～♀♂

大学では卒論・修論の提出も終わり、ほっと一息といったところです。また、REF活動の中間報告会が終わり、今期の研究活動にも一応のめどが立ったものと思われ。しかし、これからしばらくは寒い日々が続くと思われるので、カゼなどひかぬように気を引き締めていこうと思う今日この頃であります。

第14回総会 開催される

平成5年7月17日(土)午後1時30分から福井県職員会館において、REF第13期分科会報告および第14回総会が開催されました。

まず、分科会報告が総会司会橋本栄治氏により開会されました。前川幹事長の挨拶の後、三田村佳紀氏の司会により、交通分科会(発表者 横木剛氏)、緑分科会(発表者 酒井俊雄氏)、土地利用分科会(発表者 武井幸久氏)、地盤分科会(発表者 竹内成和氏)、邑都分科会(発表者 加藤哲男氏)、地象分科会(発表者 橋本栄治氏)、都市美分科会(発表者 長谷川洋氏)の発表が行われ、長村副幹事長による講評の後閉会となりました。

引き続き総会に移り、本多会長の挨拶、富田顧問の挨拶、前川幹事長による第13期活動報告が行われ、白井秀和氏を議長に選出し議事に入りました。議決事項は第13期決算報告について、役員改選について、第14期予算案についての計3件で、すべて幹事会案のとおり可決されました。総会は、議事後第14期活動方針を各幹事が発表し、橋本新副幹事長により閉会されました。

総会終了後、懇親会が開催され、会友の丹原光隆氏や石森信敏氏のスピーチなどで盛況のうちに閉会となりました。

議決事項

◆第14期役員(任期:平成5年7月~平成6年7月)

会 長	本 多 義 明
副 会 長	児 玉 忠
幹 事 長	前 川 政 人
副 幹 事 長	川 上 洋 司
〃	橋 本 栄 治
幹 事	野 村 吉 範 (総務)
〃	小 嶋 直 人 (財務)
〃	中 村 毅 (広報)
〃	長谷川 義 則 (談話会)
〃	稲 葉 隆 夫 (論文・理論研)
〃	加 藤 式 男 (研修会)
〃	加 藤 式 男 (交通分科会)
〃	沢 崎 幸 夫 (土地利用分科会)
〃	酒 井 俊 雄 (緑分科会)

幹 事	堂 本 博 滋 (地盤分科会)
〃	坪 川 敏 幸 (邑都分科会)
〃	龍 崎 俊 和 (地象分科会)
〃	白 井 秀 和 (都市美分科会)
〃	三田村 佳紀 (総務支援)
〃	龍 崎 俊 和 (財務支援)
〃	川 本 義 海 (広報支援)
〃	嶋 田 喜 昭 (談話会支援)
参 与	加 藤 哲 男 (企画)
監 査	近 藤 幸 次
顧 問	栗 田 幸 雄
〃	今 野 修 平
〃	富 田 伊 太 郎
〃	富 永 六 郎

第13期決算報告(平成4年4月1日~平成5年3月31日)

収 入		支 出	
費 目	決 算	費 目	決 算
正会員会費	1,061,000	分科会活動助成金	390,000
学生会員会費	44,000	理論研究会助成金	50,000
会友会費	216,000	談話会助成金	78,395
中間報告会	68,000	研修会助成金	200,000
総 会	55,000	機関誌印刷費	181,692
繰越金	76,383	中間報告会費	119,728
預金利子	684	総 会 費	130,001
寄付金その他	0	幹事会費	32,420
会費未納金	6,000	会議室管理費	30,000
		通信連絡費	76,384
		旅 費	10,000
		雑 費	9,682
		予 備 費	0
		積 立 金	100,000
合 計	1,527,067	合 計	1,408,302

繰越金=1,527,067 - 1,408,302 = 118,765

第14期予算案(平成5年4月1日~平成6年3月31日)

収 入		支 出	
費 目	予 算	費 目	予 算
正会員会費	1,128,000	分科会活動助成金	350,000
学生会員会費	78,000	理論研究会助成金	50,000
会友会費	258,000	談話会助成金	100,000
中間報告会	45,000	研修会助成金	330,000
総 会	65,000	機関誌印刷費	210,000
繰越金	118,765	中間報告会費	140,000
預金利子	235	総 会 費	140,000
寄付金その他	2,000	幹事会費	30,000
会費未納金	47,000	会議室管理費	30,000
		通信連絡費	70,000
		旅 費	10,000
		雑 費	18,000
		予 備 費	114,000
		積 立 金	150,000
合 計	1,742,000	合 計	1,742,000

第 1 4 期 の 活 動 活 性 化 に 向 け て

幹事長 前川 政人

○人が集って組織がある

過去、十数年間の活動によって培われた R E F の存在には大なるものがあると思います。この間の会員数の増大、活動の多様化、活動内容の充実などもはや伝統ともいえるべきものだと考えてもおかしくありません。しかしひとつひとつの活動に目をやると「形」だけあって「実」のないものも見受けられます。それぞれの幹事の皆様を中心に、“人が組織をつくる”をキーワードに活発な活動を期待するものです。

○会員同志フランクに対応しよう

会員ひとりひとりは公務員であつたり、会社員であつたり、もしくは学者であつたりしますが、R E F 活動の中ではそれぞれの垣根を取り払い親密に、そして自由に語り合う雰囲気をつくりましょう。つくりましょうと言うよりは、良き伝統としてのフランクさを取り戻しましょう。会員数が少なかった頃は自然に家族的雰囲気を醸し出していましたが、会員数が増加した今こそ目的意識的に求めなければならないと強く思います。

○R E F 活動を担う若い人材を育てよう

有能な人材は、年輩者が発掘するということではなく、若い会員同志の切磋琢磨とグループマインドによって自然に頭角を表してくるものです。自主的団体の永続性はこのような内部の世代交代によって保障されるものと考えています。

○新入会員

No	氏 名	連 絡 先
169	上坂 昭代	福井市宝永4-9-23 仁愛女子高校 Tel 0776-24-0493
180	野田 敏秀 (緑)	吉田郡松岡町兼定島 4-1-1 福井県立大学生物資源学科 Tel 0776-61-6000(3608)
511	朝井 正弘 (緑)	福井市文京 3-9-1 福井大学大学院工学研究科 Tel 0776-23-0500(2806)
512	李 偉国 (邑都)	福井市文京 3-9-1 福井大学大学院工学研究科 Tel 0776-23-0500(2806)
513	陳 怡平 (土地利用)	福井市文京 3-9-1 福井大学大学院工学研究科 Tel 0776-23-0500(2806)
327	澤井 幸久	名古屋市中区栄 4-15-32 (株)日建設計画事務所 Tel 052-261-6131

— I R E ・ R E F 合同 台北都市調査報告 —

幹事 前川 政人

今回の I R E ・ R E F 合同海外研修も例年に引き続き無事終わることができました。そしてこの海外研修は、I R E ・ R E F にとって中心となる活動としてすっかり定着した感があります。海外研修のスケジュールや団員構成、調査法等がよく整っており、現地での都市調査も余裕を持って進められたと思います。とは言ものの、反面海外研修がスマートにフォーマル化されてきたとも指摘できるのではないかと考えます。かつてのマニラやホンコン・シェンチェン都市調査では、時としてハプニングが起き、その対応に参加者全員で一丸となって解決してきました。いわば手探りの状態で対応してきたことが思い出されます。そしてこれらの「手探り」の積み重ねが I R E ・ R E F 海外研修を充実・発展させ、定着させ、そしてフォーマル化させてきたのではないのでしょうか。今後とも研修内容を充実させるとともに、フォーマル化に反作用を及ぼすアクティブな要素を取り入れて行わなければならないと考えます。

その意味で今回の台北都市調査における張金壽氏との交流会は斬新な試みとして意義深いものであったと思います。嘉日國際貿易有限公司という一民間企業との交流会は、今までにない発想の転換のうえに立って実現したものであります。今後とも官や学にこだわらず民間企業やその他の自主団体とも積極的な交流機会の設定により、I R E ・ R E F 海外研修への参加意欲と参加者の増加が期待できると思います。さらに多様な交流機会の設定構想が、一般のパックツアーや観光旅行にはない、I R E ・ R E F の個性的で魅力ある研修旅行のアピールにもなると考えます。

お知らせ

10月21日(木) R E F 談話会

午後6時30分～ 職員会館にて

【台北都市調査報告】

・ 去る7月29日～8月1日に行われた海外研修(訪問先:台北)についての報告です。

—— 第 1 4 期 R E F 第 1 回 幹 事 会 報 告 ——

平成5年9月16日(木)午後6時30分より、R E F 会議室にて第14期 R E F 第1回幹事会が開催され、第14期 R E F の運営方針について意見が交わされました。まず昨年度から引き続き幹事長2期目の前川幹事長から幹事会運営基本方針が、続いて各担当幹事から年間計画・行事予定などの報告がありました。

その中で、特に R E F 研修会に関して活発に意見が交わされました。話題は、I R E との分離により研修会については今まで以上に R E F の主体性が問われること、また研修会補助金80,000円の配分方法、さらには最近参加希望者が少ない研修会参加希望者を増やすにはどうしたらよいかということにまで及びました。

より充実した研修会にするために、事前に勉強会を開き参加者が訪問地について関心を深めること、金銭的問題としては、旅行のための積立貯金をする事など、長期的計画が必要ではないかということなどで一致しました。具体的な場所、金額、日程などはこれから煮詰めていく予定です。

次回幹事会は11月10日(水)開催予定です。

第2回幹事会開催される

第14期REF第2回幹事会が11月10日午後6時30分から三谷ビルにおいて開催され、前川幹事長、川上、橋本両副幹事長ほか全12名が出席し、各幹事からの報告および今後の打ち合わせが行われました。

まず、各分科会の活動状況について、交通分科会、地盤分科会、邑都分科会から報告があり、これらの3分科会ではすでに第14期の活動に取り組まれている状況が報告されました。(他の分科会は大丈夫?)

理論研究会からは、参加者が4~5名に固定されている現状を改善するために、今後は国際人の養成セミナーに取り組みたい旨の報告がありました。

研修会からは、来年の海外研修について、中間報告会までに会員のアンケートを行いたいとの報告がありました。

会員の異動については、希望の出ていた会員番号129の八幡智和氏および会員番号143の黒川恵次氏の退会が、平成5年10月末付けで承認されました。

また、来年でREFが15周年を迎えるにあたり、記念事業のための準備委員会設立について打ち合わせが行われました。

第3回幹事会は来年1月14日(金)に開催予定です。

いま、談話会がおもしろい!

今期も早々に談話会が2回開催され、好調な滑り出しを見せています。いずれも20名程度の参加者で活発な議論が展開されているようです。

初回(10月21日)は、「台北都市調査報告」で本多団長以下4名をゲストに迎え、この夏に実施されたIRE・REF共催の海外研修会を基に台北の土地利用、緑および交通についてスライドを交えての報告がなされました。法があつてないような、またある意味ではしたたかな市民生活等も紹介され、参加者の関心を呼びました。また、今期の海外研修から参加費の補助制度が新設されるとの若年会員にとっては耳寄りな情報もあり、今後とも活力ある都市調査に期待したい。

2回目(11月24日)は県内の主要プロジェクトを担当されている県土木部監理課脇本幹雄氏、同都市計画課沢崎幸夫氏、同西出俊亮氏の3名をゲストに迎え、「広域共同プロジェクト」、「福井駅周辺整備事業」、および「敦賀小浜都市OD調査」について発表していただきました。参加者の様々な観点からの意見が飛び交い、会場の時間一杯まで議論盛況のうちに閉会となりました。

談話会に参加しよう

長谷川幹事談

細川連立政権が誕生して以来、政・官・業のリストラ(再構築)が盛んに議論されるようになりました。我々地方計画に関わる者の関心事としては地方分権論があります。中央と地方の関係の再構築です。地域住民の福祉向上のためには、従来の全国画一的な中央主導がよいのか地域個性を活かした自治体主導がよいのかの議論です。近年の組織重視型から個人重視型の社会の流れの中で、自治体も執行機関から地方政府に移行する必要がある(財政的な問題もあるが)と思います。しかし、中央が権限を地方に任せる担保として自治体の政策立案能力が重要になります。口先で地方分権論をいうだけでなく、自治体(住民、行政も含めた)自らのリストラが必要です。

これらは、自治体を構成している個人個人が大衆の幅広い意見の中でバランス感覚を身に付け、自分の立場を確立することが大事だと思います。そのためにはREF談話会をはじめいろいろな議論に参画することが、自己研鑽の場になると思います。

今後とも、談話会としてより多くの人に議論の場を提供し、個人の資質向上さらにはREFの活性化に寄与していきたいと思います。

土木学会 土木計画学研究発表会 福井にて開催される

去る12月1日(水)から12月3日(金)までの3日間、土木学会の第16回土木計画学研究発表会がこの地福井の福井市フェニックスプラザで開催されました。3日間で全国からこれまでの最高の806人の参加がありました。この学会は毎年11月ないしは12月に開かれており、昨年は日立市にて、今回は開催当番校である福井大学のあるここ福井市にて開催されたものです。会場となったフェニックスプラザでは、研究テーマごとに6会場に分かれて計255編の研究論文が発表されました。

発表会第2日には第4会場にて福井セッションが開かれ、本県の土木計画事業をテーマにした計6編の論文発表が行われました。講演方法は発表15分、批評3分、質疑7分となっており、午前の部の福井Iセッションではまず県監理課の脇本幹雄氏により、福井・石川広域共同プロジェクトについて、みず・いで湯・文化連邦という3つのキーワードをもとに発表されました。コメンテーターからは、この研究は複数自治体の広域的・体系的なものの事例として貴重なものであり、両県にわたる自治体の協力・調整の成功例の一つとして評価を得ました。また質疑では、プロジェクト実施の定性的、定量的効果分析について、リゾートとの関係についての議論がなされました。

続いて県都市計画課の西出俊亮氏により、敦賀・小浜都市圏総合都市交通体系調査(休日交通)についての発表がありました。この調査は平成2年8月に敦賀・小浜都市圏を対象に行われたもので、ナンバープレート調査がこれほど広域的に実施した例は珍しく、参加者の注目を集めました。参加者からはこの調査結果を総合交通体系の中でどのように利用していくのか、夏期休日の代表的な1日をどう考えていくのか、といった議論が交わされました。

午後の部の福井IIセッションでは、県都市計画課の沢崎幸夫氏により、福井駅周辺整備事業についての発表がありました。この事業は福井市としては戦災後の復興以来2度目の土地区画整理事業であり、全国的にみてもあまり例を見ないもので、会場からは北陸特有の雪への対策や福井らしさをどのように演出していくのかといった質問があり、かなり突っ込んだ議論に及びました。

続いてREF会員である市都市整備課の上道悟氏により、福井市本町明里線地下駐車場建設事業についての発表がありました。福井では初の大規模地下駐車場建設事業として注目を集めているものだけに多くの人の関心を呼び、たいへん有意義な議論が交わされました。

前出の3氏は11月24日に行われた談話会にて当日の論文を一度発表されており、その成果あってか当日の発表では他地域からの出席者にもわかりやすく紹介されたので、会場からは様々な質問が出され、時には笑いも交えながら活発な意見交換がなされました(写真)。

この後小ホールにて、福井県立博物館館長の藤原武二氏により、「発掘された戦国城下町一乗谷の様相」という演題の特別講演がありました。

来年度は栃木県宇都宮市にて開催されることになっています。



お知らせ

中間報告会の日程 決定

第14期の中間報告会が次の通り開催されることとなりました。

日時 1994年2月4日(金)
報告会 午後6時から
懇親会 午後7時30分から
会場 県民会館 305号室

なお、各分科会は報告用の資料(A4判2枚程度で書式はREF研究報告に準拠)を1月末までに総務担当幹事の野村まで提出してください。



第14期 REF 中間報告会開催

第14期REF中間報告会が、平成6年2月4日(金)午後6時より福井県民会館にて開催されました。司会の三輪裕一氏の開会の辞、続いて本多義明会長の挨拶の後、7分科会による中間報告が行われました。報告の内容は盛りだくさんで、発表時間の7分はあっという間に過ぎていたようでした。研究が緒に付き始めたものから報告書完成間近と思わせるものまで様々でしたが、各報告に対して参加者からは積極的に質問等が出され、活発な意見交換がなされました。全分科会の発表の後、野田敏秀氏から総評を頂き、川上洋司副幹事長による閉会の辞をもって報告会は盛況のうちに閉会となりました。中間報告会の終了後には懇親会が開かれ、優秀研究が表彰されました。今回の優秀研究は地盤分科会が選ばれました。

各分科会とも、独自の観点から興味深い研究を進めているようです。研究報告書提出までにはまだ日がありますから各分科会の皆さん、研究頑張りましょう!

報告の概要(発表順)

(敬称略)

●交通分科会(発表: 豊田剛 講評: 三田村佳紀)

「福井市における自転車利用の現状と将来」

昨年度の研究を受けて、昨年10月に主に福井市民を対象に実施した自転車利用に関するアンケート調査の結果報告。自転車利用の頻度、自転車利用の目的、自転車利用における不満、悪天候時の自転車利用者の対応、自転車走行の好き嫌い・通り易さの実例から研究を進めている。

●緑分科会(発表: 酒井俊雄 講評: 橋本栄治)

「美しい街路樹とは」

昨年度は「魅力ある公園整備のあり方について」という研究テーマであったが、今年度は街路樹に焦点を当て、都市における街路樹の役割、街路樹を美しく見せる手順を考えながら調査・研究を進め、美しい街路樹とするための方策について考察していく。

●土地利用分科会(発表: 沢崎幸夫 講評: 白井秀和)

「都市景観の概念と評価に関する研究」

1991年の「福井市の街並みイメージに関する考察」の成果を踏まえ、さらに発展させたメンタルマップを活用した、そこに居住する住民の主観的な景観評価の手法の構築を検討する。

●地盤分科会(発表: 堂本博滋 講評: 稲葉隆夫)

「大野市における地下水に関する一考察」

良質な地下水に恵まれ市民に親しまれてきた城下町大野で大きな問題となっている様々な地下水障害に対し、大野盆地における水収支と自然環境の変貌、および市民生活形態の変化等に注目して、今後の土地利用と水利用のあり方について検討を行う。

●邑都分科会(発表: 坪川敏幸 講評: 横田強)

「地域比較優位論」

今期は、地域性について佐々木綱氏の風土分析を参考にして考察を試みる。風土を理解するための各種イメージを研究し、一つのアプローチとして、イメージ評価データ、地域イメージ評価空間の抽出、地域個性の抽出という方法によって「人々のイメージから捉えられる地域個性の把握」を試みる。

●地象分科会(発表: 龍崎俊和 講評: 野村吉範)

「第2福井地震に向けての若干の考察」

1948年(昭和23年)6月28日は、福井地震が起こった日であり、あと4年と数ヶ月で50周年を迎える。当分科会の過去の研究では、福井地域においてあと20年ぐらいの間にまた地震が起こることになる。とすれば、我々はその地震とどうにかお付き合いをしなくてはならない。今回は、その第2の福井地震に向けて都市防災の観点から若干の考察を行う。

●都市美分科会(発表: 長谷川洋 講評: 前川政人)

「初期都市美運動における計画実現戦略」

昨年度は都市美運動と1893年シカゴ万博との関係を検討し、都市美運動の起源とその美学・イデオロギー上の意義について論じたが、今年度は都市美運動初期の具体例を取り上げ、その計画実現のための戦略的側面に重点をおいて検討を試みる。これまでこの都市美運動実現のための戦略的側面に関してはほとんど言及されてない。よってここではまず初期都市美運動の4例を参照しつつ、その計画内容およびその策定プロセスとともに、計画策定後から計画実施に至るまでの戦略面を明らかにすることを目的としている。

滋賀まちづくり研究所の例会に参加して

今回、同研究所の例会に参加することになったのは、REF会友（現会員）で、かつ滋賀まちづくり研究所会員のMTM地域環境研究所所長丹原光隆氏から、「同研究所例会が開催されるので参加されてはどうか」とのお誘いの手紙を受けて実現したものである。

まず、ピアニスト福田直樹氏のピアノリサイタル&トークショーで始まり、続いて同会の発起人の近江八幡市企画課副主幹吉田正樹氏の乾杯、しがぎん経済文化センター社長の高橋敬二氏のまちづくり談義、参加者全員によるパーティーゲームなどでなごやかな雰囲気の中でとり行われた。



はなく皆個人参加。年三千六百円の会費を払い、手弁当で月一回集まる。

設立総会は近江八幡市で開催、同時にまじまじの専門店家の記念講演を予定している。主な活動は、こうしたシンポジウムやセミナーの開催のほか、ごみ拾除や特産品販売など地域活動への参加、先遣地への研修など。活動内容

(写真左：パーティの様子)